

| | |
|---|---|
| 家事審判官 | 主任調査官等 |
|  |  |

調 査 報 告 書

家事審判官 三 輪 恭 子 殿

平成23年3月3日

横浜家庭裁判所

家庭裁判所調査官 松 本 祐 里 印

家庭裁判所調査官 越 裕 美 

事件の表示：平成22年（家）第2796号

子の監護に関する処分（面会交流）事件

当事者等の表示

申 立 人：

相 手 方：

未 成 年 者：

受命年月日：平成23年1月24日

調 査 事 項：部分調査（子の状況調査）

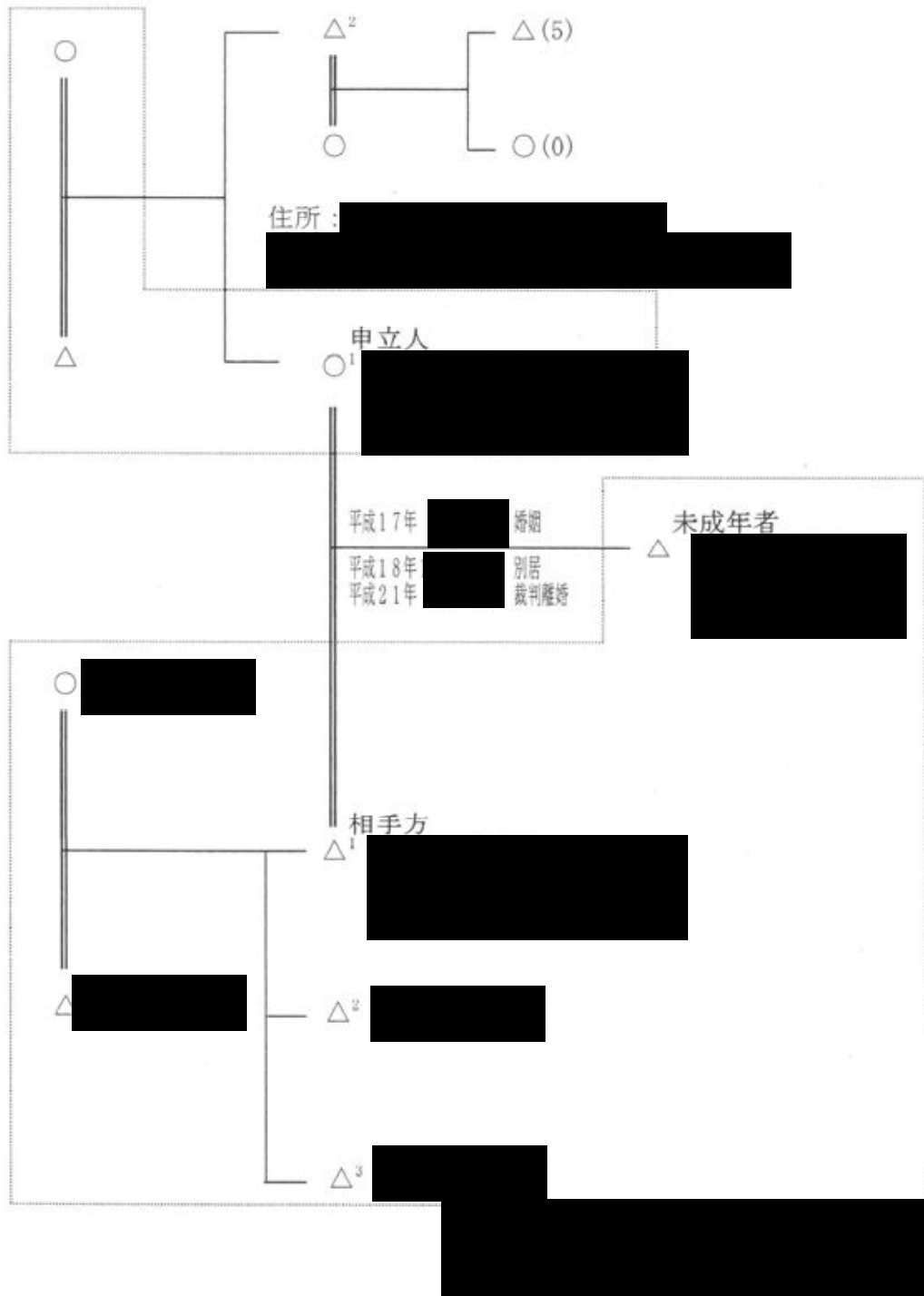
調査経過 年月日：調査対象，調査場所，調査方法等

23. 2. 9：相手方と当庁において面接

23. 2. 18：未成年者の在籍保育園の園長及び担任教諭と同保育園において
面接

23. 2. 21：相手方，未成年者，相手方の父母と相手方宅において面接

関係者一覧



相手方の状況

1 生活状況

平成18年[]から、相手方の実家において、未成年者、相手方の父母、相手方の妹2人と一緒に生活している。間取りは、照会書別紙3のとおりである。

[]
1日のスケジュールは照会書別紙4のとおり。

2 心身の状況

(1) 平成20年3月から通院を始め、「外傷後ストレス障害」との診断を受けている（別添診断書参照）。現在は月1回の通院を継続している。服薬状況は照会書別紙2のとおりである。

(2) 相手方によれば、通院のきっかけは、申立人と同居時に、申立人から暴力等を受けたことによって、緊張感や不安感、不眠、フラッシュバックなどの症状が出るようになったからであるという。

離婚が成立した平成21年[]以降は、上記のような症状が徐々に落ち着き、服薬も夜のみ減らしていたが、本件が申し立てられた平成22年11月以降、再び、緊張感や不安感が強くなり、わずかな物音や車の音に敏感に反応したり、申立人と同居時のことが思い返されたりすることがあるため、次回受診時に、服薬量を増やすことなどについて、主治医に相談するつもりであるという。

未成年者の状況

1 生活状況

平成19年[]に保育園に入園し、現在[]に在籍している。

1日のスケジュールは照会書及び別紙4のとおり。

2 心身の状況

(1) 未成年者の身長は[]、体重は[]
ある。

(2) 平成20年4月から小児精神科に通院している（別添「意見書」参照）。通院は2、3箇月に1度で、服薬は特にしていない。

相手方によれば、相手方の主治医に未成年者にも不安定な様子が見られることを相談したところ、相手方の主治医から小児精神科を紹介されたことが通院のきっかけであるという。

(3) 相手方及び相手方の父母は未成年者について、以下のように述べている。

未成年者は乳幼児期から眠りが浅い。熟睡できないようで、1時間程度で目覚めてしまい、夜泣きすることが多かった。現在でも、夜は必ず相手方と一つの布団で寝ており、相手方が布団を離れると、すぐに気づいて目覚め、泣いたりぐずったりする。一晩通して熟睡できないせいか、目覚めが悪くて朝ぐずる日がある。

未成年者は年齢に比して相手方にべったりとしていることが多い。保育園に行っている時間以外で、未成年者が相手方と離れている時間はほとんどない。外出の際はほとんど相手方が一緒であり、相手方の父母と未成年者だけで出かけたことなどはない。相手方が日曜日に出勤するとき、相手方の母と留守番をすることがあるが、その際、「ママがいない。」と不安げになったり、相手方が自宅に居ても、未成年者と相手方の父母が1階にいて、相手方が2階にいると、「ママはどこ。」と尋ねたりすることがある。相手方は、未成年者の不安を和らげるために、わずかな時間であっても、未成年者と離れるときには行き先と戻ってくる時間を伝えるようにしている。

また、未成年者は壮年の男性が苦手である。在籍保育園の保育士は全員女性であるため、もともと男性と接する機会が少ない。相手方の父や親戚、未成年者の友達の父、年配の男性などであれば、特に怖がることはないが、[]
[]に出入りしている業者の男性などは見ると、隠れてしまう。

本件が申し立てられた後は、おしゃぶりを持ち出したり、はいはいをしたり、夜寝るときに相手方のおっぱいを触ったまま寝るなど、「赤ちゃん返り」のよ

うな様子が見られるようになった。また、本件の調査や審判で相手方が裁判所に行くようになってから、それまではほとんどなかったおねしょをするようになった。最近朝、ぐずって保育園に行くのを嫌がることもある。

以下、園長及び担任教諭の陳述要旨である。

1 登園状況

毎週月曜日から土曜日まで登園している。欠席日数は、土曜日の欠席も含めると、平成21年度は年間24日、平成22年度は2月現在で15日である。

朝は、午前9時前後に登園することが多い。保育園では9時から10時頃まで園庭等で自由に遊び、10時頃から制作などの集団での活動を始めることが多いため、なるべく9時頃に登園するように指導している。3歳児クラスの際は、登園が10時から11時になることが多かったが、4歳児クラスになって、遅れることは少なくなった。遅れる際には、相手方から必ず電話連絡がある。遅刻の理由は確認していない。

2 保育園での生活状況

未成年者は、明るく笑顔で登園してくることが多い。相手方と離れる時の様子は日によってまちまちであり、すぐに相手方と離れて友達と遊んでいることもあれば、荷物の片付けも全部相手方にやってもらうなど、赤ちゃんのようにべったりとくっついて甘えていることもある。相手方に説得されても、廊下で駄々をこねてなかなか教室に入ろうとしないこともある。

お絵描きや工作などの作業には集中して取り組んでいる。

好き嫌いはあるが、苦手な食べ物の時には自分から半分にしてほしいと要求している。

昼寝時は、他児とおしゃべりをしてしまい、寝付くまでに時間がかかることはあるが、毎日眠っている。保育士が声をかけないと起きられないことが多い。

全体では、午後3時30分にさよならのあいさつをするが、未成年者の迎えは午後5時30分から6時頃になるので、それまで居残りの児童が集まっている部屋で、ビデオを見たり、外で遊んだりして過ごしている。相手方が迎えに来るまで楽しそうに遊んでおり、迎えが来れば「おかえり。」と嬉しそうに出迎え、喜んで帰っている。

3 心身の状況

自分の意見をはっきり言うタイプである。やりたいことは主張するし、嫌なことがあれば嫌と言える。自己主張が強いため、自分の思い通りにいかないときには、他児とトラブルを起こすこともある。1、2歳の頃は、思い通りにいかずに手を出してしまうこともあった。4歳になって、言葉で伝えられるようになり、手が出ることは減ってきた。

仲の良い友達は女の子が多いが、男女問わず誰とでも仲良く遊べる。[REDACTED]。基本的にのびのびと過ごしており、正義感が強く、リーダーシップを取れる子である。

保育園に男性の職員はいないため、接する機会は少ない。父兄や実習生など男性が園に来た際に、極端に怯えるといった様子はない。

保育園では父親がかかわるような行事はなく、未成年者から父の話題が出たこともない。他児が父の話をしているときに、特別な反応を示すこともない。

3 保護者の状況

園でトラブルがあれば、相手方には必ず伝えており、相手方からも、家庭での様子については連絡を受けている。

保育園としては、未成年者の生活リズムを確立するために、登園時間はなるべく早くするよう指導を続けている。

家庭訪問調査結果

調査官が自宅を訪れると、相手方の母が出迎え、調査官を居間に案内した。未成年者は居間におり、調査官があいさつすると、緊張した面持ちになり、調査官には何も言わず、2階にいる相手方のところまで走っていき、「ママー、お客さん来たよー。」と大きな声で告げた。

未成年者は、相手方に抱っこしてもらい居間に降りてきて、調査官が声をかけても、なかなか顔を見せようとしなかった。相手方が「恥ずかしいのかな。」などと声をかけても、調査官から「名前教えてくれるかな。」と声をかけても、相手方にべったりと抱きつくばかりであった。

相手方の父が帰宅すると、未成年者は「じじちゃん来た。」と嬉しそうに声をあげながら、相手方の父に抱きついた。

調査官が、相手方や相手方の父母から普段の生活について話を聞き、しばらくしてから、未成年者に「好きなことして遊んでいてもいいよ。」と促すと、未成年者はようやく相手方のひざから降り、ポケモンの塗り絵を持ってきた。未成年者は線をきれいに縁取り、様々な色の色鉛筆を使って、色を塗っていった。

未成年者が塗り絵をし始めたところで、調査官から、「今日は、私たちが来るのは聞いてた？」と尋ねると、未成年者が首をかしげたので、 ちゃんが、普段どんなことしてるのかな、元気にしてるかなっていうのを見に来たんだよ。」と伝え、「びっくりしたかな。」などと尋ねると、未成年者は、マイペースに塗り絵を続けながら調査官の質問に答えた。

相手方や相手方の父母にもいつもと同じように遊ぶようにと促すと、相手方が一緒に塗り絵を始めた。未成年者が「これ火だから赤で塗って。」などと指示しながら2人で塗り進めていた。

相手方と2人で塗り絵を始めてまもなく、未成年者は、「塗り絵は終わり。パズルにする。」と言って塗り絵を片付け、プリキュアのパズルを持ってきた。未成年者は、パズルを1人ですぐに完成させ、相手方に促されて、キャラクターの名前を調査官に説明した。

パズルが完成した後は、アンパンマンのパソコン型のおもちゃで遊び始めた。

訪問から約30分から40分が経つと、未成年者は徐々にリラックスした様子になり、調査官に「これはサンタさんにもらった。」と説明したり、「やっていいよ。」と言って調査官にもおもちゃで遊ぶように促したりようになった。

調査官から、相手方の父母に退席を促すと、相手方の父母は「2階に行ってるね。」と声をかけた。未成年者は遊びながら「うん」と返事した。

その後、しばらくはパソコン型のおもちゃで遊んでいたが、調査官が画用紙を出すと、未成年者は画用紙の左端に女性の絵を描き始め、「これはママ。」と説明した。「これはお姉ちゃん。」と言いながら、二人目の顔の輪郭を描いた。

絵を描いている途中で、母に退席を促すと、相手方は、未成年者に「ママ、2階に行ってアイロンかけてくるけどいいかな。」と声をかけた。未成年者は、絵を描き続けながら、「うん。いってらっしゃい。」と応じた。

相手方が退席してまもなく、未成年者はうさぎのキャラクターのついたシャーペンを持ち出し、調査官に見せた。調査官が「かわいいね。この子は何て言うのかな。」と尋ねると、少し考えた後で、「ママに聞いてくる。」と言って、相手方にキャラクターの名前を聞きに、2階に駆け上がった。

調査官から「他の家族も描いて。」と促すと、もう一人顔を描き始め、「これがおじいちゃん。」と説明したが、描くのを失敗したようで、「失敗。」と言って、上からバツ印を書き、絵を描くのをやめた。

調査官が用意してきた「じじ」、「ばば」、「ママ」、「ばば」、「わたし」と名札をつけた指人形と女の子、男の子、猫、犬などの指人形、計11個の指人形を出して、未成年者に見せると「かわいい。」と興味を示し、指にはめた。

調査官から、「 ちゃんの家族を紹介して。」と促すと、「じじ」、「ばば」、「ママ」、「わたし」と書いてある指人形と女の子の指人形の5本を並べ、調査官が「これが ちゃんの家族？」と尋ねると、「うん。」と答えた。

その後は、おもちゃが片付けられている棚から折り紙を持ってきて、折り紙を始めようとし、「小さい鶴折れるから、ママ呼んでくる。」と言って、2階に相手方を呼びに行った。その後、相手方も一緒に折り紙を始めたが、調査官から再度退席を促した。

相手方が退席した後、調査官から、未成年者に「さっき家族を5人並べてくれたけど、 ちゃんのパパは？」と尋ねると、折り紙を折りながら「パパはいないよ。」と述べた。「パパはどうしたの？」と聞くと、「知らない。」と言い、特に表情を変えることはなく、話しぶりもそれまでと変わらなかった。

その後は、折り紙に夢中になっており、調査官にハートやきつねの折り方を教えた。

相手方と相手方の父母が2階から降りてくると、「おかえり。」と言って、調査官と一緒に作った作品を相手方らに見せた。

調査官が帰宅すると告げると、未成年者は相手方に抱きついて顔をうずめたが、調査官が帰宅する際には、相手方に抱かれたまま調査官らに手を振って見送った。
